

くすり一口メモ

腎機能低下時に投与禁忌，慎重投与となっている糖尿病治療薬

2014年に新しい作用機序を持つ糖尿病治療薬としてSGLT-2（sodium-glucose cotransporter 2；ナトリウム・グルコース共役輸送体）阻害薬が発売され，経口糖尿病薬による治療の幅が広がりました。糖尿病治療薬の中には高齢による腎機能低下患者や，腎症により腎機能障害をきたした患者には禁忌となっている薬剤があります。特にビグアナイド類は，腎機能低下時に致死性の乳酸アシドーシスを起こす危険性があります。そのため腎障害のある患者にはインスリン治療が原則となっていますが，高齢あるいは視力障害のある患者では，インスリン治療を安全に継続することが困難なことも多く，経口血糖降下薬を選択せざるを得ない場合も少なくありません。そこで，今回は添付文書の「禁忌」，「慎重投与」の欄に腎機能に関する記載のある薬剤（インスリン製剤を除く）についてまとめてみました。

表1 腎機能障害時における禁忌または慎重投与記載薬剤（添付文書中）

分類	一般名	主な商品名	重篤な腎機能障害	中等度の腎機能障害	軽度の腎機能障害
SU薬	グリベンクラミド	オイグルコン錠	禁忌	慎重投与	
	グリクラジド	グリミクロン錠	禁忌	慎重投与	
	グリメピリド	アマリール錠	禁忌	慎重投与	
速効型インスリン分泌促進薬	ナテグリニド	ファステック錠	禁忌	慎重投与	
	ミチグリニド	グルファスト錠	慎重投与		
	レパグリニド	シュアポスト錠	慎重投与		
ビグアナイド類	メトホルミン	メトグルコ錠	禁忌		慎重投与
	ブホルミン	ジベトス錠	禁忌		
α-グルコシダーゼ阻害薬	ボグリボース	バイスン錠	慎重投与	—	—
	アカルボース	グルコバイ錠	慎重投与	—	—
	ミグリトール	セイブル錠	慎重投与	—	—
チアゾリジン誘導体	ピオグリタゾン	アクトス錠	禁忌	慎重投与	
DPP-4阻害剤	シタグリプチン	ジャヌビア錠/ グラクティブ錠	慎重投与		—
	ビルダグリプチン	エクア錠	慎重投与		—
	アログリプチン	ネシーナ錠	慎重投与		—
	リナグリプチン	トラゼンタ錠	—	—	—
	テネリグリプチン	テネリア錠	—	—	—
	アナグリプチン	スイニー錠	慎重投与	—	—
	サキサグリプチン	オングリザ錠	慎重投与		—
	トレラグリプチン	ザファティック錠	禁忌	慎重投与	—
	オマリグリプチン	マリゼブ錠	慎重投与	—	—

SGLT-2阻害剤	イブラグリフロジン	スーグラ錠	—	—	—
	トホグリフロジン	アプルウェイ錠	—	—	—
	ダパグリフロジン	フォシーガ錠	—	慎重投与	—
	ルセオグリフロジン	ルセファイ錠	—	—	—
	カナグリフロジン	カナグル錠	—	慎重投与	—
	エンパグリフロジン	ジャディアンス錠	—	慎重投与	—
GLP-1アナログ	リラグルチド	ビクトーザ皮下注	慎重投与		
	エキセナチド	バイエック皮下注	禁忌	慎重投与	
	エキセナチド	ビデュリオン皮下注	禁忌	慎重投与	
	リキシセナチド	リキスマピア皮下注	慎重投与	—	—

SU (sulfonyleurea；スルホニル尿素) 類，速効型インスリン分泌促進薬，ビグアナイド類， α -グルコシダーゼ阻害薬，チアゾリジン誘導体，GLP-1 (glucagon-like peptide-1；グルカゴン様ペプチド-1) アナログはいずれの薬剤も重篤な腎機能障害患者は禁忌または慎重投与となっています。その中でもビグアナイド類は，軽度・中等度腎障害患者においても禁忌となっています。

DPP-4 (dipeptidyl peptidase-4；ジペプチジルペプチダーゼ-4) 阻害剤の中でリナグリプチン，テネリグリプチンは腎機能での制限はありませんが，他のDPP-4阻害剤は「用法用量」の欄に腎機能に応じた用量調節が明記されています。

表2 DPP-4阻害剤の中で腎機能に応じた用量調節が記載された薬剤

一般名	投与量
シタグリプチン	30 \leq Ccr<50：25～50mg 1日1回 Ccr<30：12.5～25mg 1日1回
ビルダグリプチン	中等度以上の腎機能障害のある患者または透析中の末期腎不全患者：50mgを1日1回朝に投与するなど，慎重に投与すること
アログリプチン	30 \leq Ccr<50：12.5mg 1日1回 Ccr<30：6.25mg 1日1回
アナグリプチン	Ccr<30：100mg 1日1回
オキサグリプチン	Ccr<50：2.5mg 1日1回
トレラグリプチン	30 \leq Ccr<50：50mg 週1回
オマリグリプチン	eGFR<30：12.5mg 週1回

SGLT-2阻害剤の中で「禁忌」，「慎重投与」の欄に腎機能に関する記載がある薬剤は，ダパグリフロジンのみとなっています。しかしいずれの薬剤も「一般的注意」の欄に「重度の腎機能障害のある患者又は透析中の末期腎不全患者では本剤の効果が期待できないため，投与しないこと。中等度の腎機能障害のある患者では本剤の効果が十分に得られない可能性があるため投与の必要性を慎重に判断すること」と記載されています。

【参考文献】添付文書

(鹿児島市医師会病院薬剤部 福元 裕介)